



のんちゃんの

おすすめスポット紹介

拡大版

「たばこと
塩の博物館」へ
行ってきました



見るだけでも楽しい喫煙具（パイプ）の展示

専売制とは？

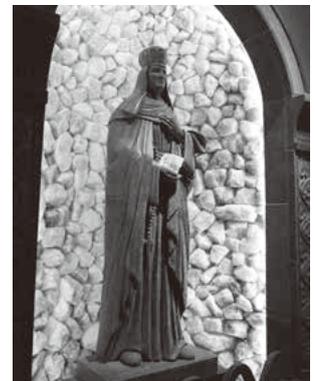
国家などが財政収入を増加させるために、特定物資の生産・流通・販売などを管理下に置き、利益を独占する制度。品質保証、安全管理、公衆衛生上の意味合いもある。

「なぜ『たばこ』と『塩』なのか」

と若い世代の方は疑問を持たれるかもしれませんが、昭和60(1985)年まで、たばこ塩は日本専売公社(現・たばこ産業株式会社「JTC」)の専売品でした。同館は、たばこ製造専売70周年を記念し、昭和53(1978)年に東京・渋谷に開館。3年前、JTCの倉庫がある墨田区に移転し、リニューアルオープン。展示スペースが倍になり、見どころ満載の博物館です。

「たばこ」のフロアでは、葉巻をくゆらすマヤ文明の神様が彫られたレリーフがお出迎え。南米では、たばこは嗜好品であるとともに、薬でもあり、神様への捧げ物でもありました。15世紀後半、コロンブスのアメリカ大陸到達をきっかけに、急速に世界中に広まってきました。

国や年代ごとに分けられた、パイプやたばこ入れなどの喫煙具の展示は、数の多さも圧巻ですが、簡素なつくりのものが、しだいに精巧で洗



岩塩彫刻聖キンガの祭壇

練されたものになり、喫煙が「文化」として各地に根付いた歴史が良くわかります。たばこを吸わない方も、喫煙具や歴代のたばこのパッケージ、看板などは、アートとしても楽しめます。

続いて子どもたちに人気の「塩」のフロアへ。動物のキャラクターが迎えてくれ、楽しく塩づくりの歴史や、塩の性質等を学ぶことができます。世界中の塩が展示されており、中には思わずなめてしまつ子もいるとか。日本では岩塩や塩湖がないため、塩は海水からつくられますが、世界にはウニ塩湖(ボリビア)や死海(ヨルダン)、ヴェイリチカ岩塩抗(ポーランド)などさまざまな「塩資源」があることがわかります。必見は、ポーランドの職人さんによって制作された岩塩彫刻。昔は危険と隣り合わせの過酷な塩の採掘

場だったヴェイリチカ岩塩抗は、岩塩を採掘した後の地下空間に塩の礼拝堂がつけられ、今では世界遺産となっています。塩でつくられたシャンドンエリアまで復元されていますので、行かれた方はぜひ、天井もご覧くださいね。

同館では、たばこ塩以外にもさまざまな特別展を開催。夏休みには子ども向けに塩のワークショップ等も行っていきます。5階には飲食ができるスペースもありますので、スカイツリーや浅草散策の帰りにぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



主任学芸員・ 谷田有史さんのおススメ!

ポーランドに「ドラム缶ぐらい」のサイズの岩塩がほしいとリクエストしたところ、本当にドラム缶の寸法で送ってきてくれました(笑)重さなんと1.4トン。この大きさをぜひ体感してください!

〒130-0003 東京都墨田区横川1-16-3 電話: 03-3622-8801 / FAX: 03-3622-8807

たばこ塩の博物館

交通: ●東武スカイツリーライン「とうきょうスカイツリー駅」より徒歩8分 ●都営浅草線「本所吾妻橋駅」より徒歩10分
●東京メトロ半蔵門線、東武線、京成線、都営浅草線「押上駅」より徒歩12分